

消費者の視点から経済概念の育成をはかる小学校の経済学習

- 1 校種・教科・科目 小学校・社会科
- 2 単元名 わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと
- 3 学習指導要領上の位置付け (2) アおよびイ「地域に見られる生産や販売の仕事」
- 4 カリキュラムマップとの関連性 科学技術と社会の発展・人間と環境の調和

5 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
○販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫しておこなわれていることを理解することができる。 ○資料から調べて分かったことを、ワークシートや白地図などにまとめることができる。	○消費者の願いや販売の仕方、様々な地域や国との関わりなどに着目して、販売に携わる人々の様子をとらえることができる。 ○販売の仕事に見られる工夫を考え、話し合ったりキャッチコピーをつくったりして表現することができる。	○地域に見られる販売の仕事の工夫について、学習問題の解決に向けて意欲的に調べることができる。 ○販売の仕事と自分たちの生活との関わりについて、主体的に話し合いながら考えることができる。

6 単元の特徴（教材観）

本単元は、「地域に見られる生産や販売の仕事」について学習問題を追究・解決する活動を通して、生産の仕事が地域の人々と密接な関わりをもっていることや、販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高める工夫をしていることを理解することをねらいとしている。ここでは、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることの理解をはかる。そのために、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関りなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することが必要である。そこで、本単元では、生産したものをスーパーマーケットなどで販売し、消費者のもとに届けるという物流に着目する学習である。そして、食料品に関しては、国内の他地域や諸外国との関わりについても調べるため、「生産の仕事」から「販売の仕事」に学習をつなげることで、身近な地域から広い地域へと思考をつなげていくことができる。「販売の仕事」である小売業にはさまざまなものがあるが、本単元では、児童にとってなじみが深く、食料品を中心に人々の生活と強く結びつきのあるスーパーマーケットを取り上げている。そこで働く人の工夫を調べ、自分たちの生活と関連させて考えながら、絵や文章でキャッチコピーをつくることで、学習して分かったことを表現する力を育てたいと考える。

本学級の児童は、1学期にまちの様子を調査して地図に表したり、生産されたものがどのようにして家庭まで届くのかを調べたりしてきている。本学級の児童は、「生産の仕事」の学習で、かまぼこ工場の製造工程や立地について、理由を考えながら意欲的に学習することができていた。また、校区内のスーパーマーケットやコンビニエンスストアで買い物をした経験のある児童も多い。各家庭で、家族と一緒に買い物に行ったり、一人で買い物をしたりする経験を多くしていることが考えられる。しかし、店が工夫していることや、食料品などの他地域とのつながりには気付いている児童は少ないので、そのことに気付くことのできる学習になるようにしたい。

指導にあたっては、単元の導入で、児童が知っている様々な店を紹介し合う。その際、スーパーマーケット以外にも様々な店があることを確認し、店に興味をもてるようにする。そのため、児童の経験を生かしながら、店の工夫について調べたり、人々の生活を支えていることをとらえたりできるようにしたい。

そして、家の人との買い物について調べることで、どの家庭もスーパーマーケットを利用する頻度が高いことを、表にまとめて比較できるようにする。その結果から、なぜスーパーマーケットに行く人が多いのかということや、スーパーマーケットはどのような工夫をしているのかという視点の学習問題を設定できるようにしたい。

次に、スーパーマーケットの絵地図から、店内の様子を知ったり工夫を見つけたりしながら、調べたいことを明確にして学習問題を立てる。陳列方法や価格、品質などの視点をもって調べる学習ができるようにする。また、レジやバックヤードなどのイートインコーナーやサービスカウンター、トイレ、リサイクルコーナー、クリーニング店などの、スーパーマーケットでの販売以外のことに目を向けられるよう言葉がけを行う。さらに、働く人の服装の違いや、バックヤードや店外で働く人の様子にも着目させたい。食料品は国内外の様々な地域から運ばれてくることもとらえられるようにする。

最後に、なぜ多くの客がスーパーマーケットに買い物に来るのかを話し合い、キャッチコピーをつくる活動を通して、お客の多様な願いを踏まえていることに気付けるようにしたい。キャッチコピーをスムーズに書くことができるよう、心に残ったことやキーワードに赤線を引いておくことで、学習したことを見返しやすいうようにしておく。全体を通して、児童の経験を生かしながら、店の工夫について調べたり、人々の生活を支えていることをとらえたりできるようにしたい。

7 単元計画

次	時	項目	学習活動
1次 スーパーマーケットを調べる課題をつくろう。	1	知っている店をしょうかいし合う ①	買い物の経験を話し合い、地域には様々な店があることを知る。買い物調べカードの計画を立てる。
	2	買い物をしている店を調べる ①	買い物カードの結果を表にまとめ、その特徴を読み取る。
2次 スーパーマーケットについて調べよう	3	スーパーマーケットのくふうを予想する ①	スーパーマーケットの絵地図から、考えたことや疑問に思ったことを話し合う。
	4	見学の計画を立てる ①	スーパーマーケットについて知りたいことを整理する。

	5	店内のようすを見て調べる ①	スーパーマーケットの売り場の様子について調べる。
	6	インタビューをして調べる ②	スーパーマーケットで働く人について調べる。
	7	そのほかのくふうを調べる ①	スーパーマーケットの品物を売ること以外の取り、組みや工夫について知る。
	8	品物の産地を調べよう ①	品物をそろえるための工夫や産地について調べる。
3次 キャッチコピーを作ろう	9	スーパーマーケットのよさを話し合う ①	スーパーマーケットのよさについて話し合う。
	10	キャッチコピーをつくろう②	スーパーマーケットのよさをまとめたキャッチコピーをつくる。

8 カリキュラム・マネジメント

(1) 授業分析と結果

① 授業者の振り返り

○本時では、児童が店長になって、自分のスーパーマーケットに多くの来客があるように、既習事項を生かして考えるという設定が、児童の主体的な学びにつながった。

○単元を通して、自分たちの生活にスーパーマーケットがなくてはならないものであること、価格設定の工夫、食材の選び方、陳列方法、地域との結びつきなどを知り、毎時間分かったことを文章で表現して友達と共有することで深く学ぶことができた。

② 授業分析に基づいた評価

授業者は指導にあたって、育てたい価値認識力（ものごとを評価・判断するときに基準とする時や何にどういう価値があるかという判断をする際の基準を明らかにし、生活の場面に生かす力）を構想して授業に臨む。そこで、授業者が子どもに身に付けてほしい価値認識力を分析の視点として、それと子どもの発言やワークシート記述などの言語表現とを比較・分析を行う。本単元の価値認識として

- ・スーパーマーケット
 - ・働く人
 - ・工夫
 - ・願い
 - ・安い
 - ・安全な食品
 - ・サービス
 - ・品揃え
 - ・販売
- 等が考えられる。

③ 結果

指導計画の中に「経済」の概念を押さえておくことにより授業者自身がそれを根拠にして授業を行った結果、子どもたちの学習結果に反映されている。このことから、予め、目標や方法に位置付けておくことが明らかになった。

(2) 今後の課題

① 授業の課題

○本時では、個の学びから全体での共有となっており、対話が多かったとは言えない。感染症対策を考慮しなくてよかったら、自分の考えをグループで共有し、グループでまとめた考えを全体で共有できもっと学びが深まっていた。

○児童が出したお客さんの3つの願いは、「いろいろなものを仕入れてほしい」「買

い物をしやすくしてほしい」「環境によい店にしてほしい」とあったが、3つ目は環境だけでなく地域との結びつきやいろいろな人への配慮についても触れなくてはいけなかった。サービスカウンターや地域の掲示板，身体障害者用の駐車場など，環境以外に大切なことが抜けている。

○単元を通して，主体的・対話的で深い学びを意識して授業を進めたが，主体性を次時へのつながりへと生かすことができなかった。児童が学びたいことを明確にして，学習をつなげていく学び方ができていたら，本時で使われたスーパーマーケットの用語はもっと増えていたのではないかと考える。

○児童の発言を制御できていなかった。本時のめあてを達成するために足りていない部分を深く聞き出したり，本時には必要のないことまで発言させてしまったりして，全体共有から考察させることができていない。

②「経済」という視点に基づいた授業実践の授業分析の方法及び分析結果を生かしたカリキュラムづくりについて検討する。

③小学校社会科における「経済」基本的な概念を授業実践に基づいて明らかにする。

9 本時の授業展開 第9 / 10時

(1) 目標

○たくさんのお客さんが買いにくる理由とスーパーマーケットで働く人の工夫とを関連づけて考え，ワークシートにまとめることができる。(思考力・判断力・表現力等)

(2) 準備

・ワークシート

(3) 学習過程

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	留意点 (○) 評価 (◎) 規準 (◆)
	T: 教師 C: 児童	
1 本時のめあてをつかむ。	<p>T: 今まで勉強してきたスーパーのことについてどんなのがありますか。</p> <p>C1: 看板で場所を示しています。</p> <p>C2: ご飯が近くににあります。</p> <p>C3: コンビニとかだったらいろんな種類がある。</p> <p>T: 種類がたくさんあるっていうのはどういうことでしょう。</p> <p>C4: 入ったらすぐに飲み物とかが入ってある。</p> <p>C5: いろんな大きさに切ってある。</p> <p>C6: いろんな産地がある。</p> <p>C7: 車いすの方が通りやすいようにスロープがある。</p> <p>C8: リサイクルとか環境にやさしいこと。</p> <p>C9: 出来立てのものがある。</p>	<p>○これまでの学習で調べてきたスーパーマーケットの様子の写真を，児童と確認しながら提示する。</p> <p>○品物の並べ方，働く人の様子・安全な食品などに着目させる。</p>

<p>2 スーパーマーケットがしている工夫について、自分の考えをもつ。</p>	<p>C10:お買い得のものがいっぱいある。 C11:サラダやドレッシングなどの一緒に使うものが近くにある。 C12:おすすめ商品には黄色いシールがはってある。 C13:お客さんがわかりやすい広い道に置く。 C14:いろいろ種類で分けられている。 C15:さばいたり、料理をしたりするときに清潔な服装をしている。 T:お客様アンケートを見たことがありますか。 T:上の段にお客様がスーパーにしてほしいお願いなどを書き、下の段にスーパーがこんな風になっていますよ、などの答えを書きます。 T:じゃあ今日はみんなにも体験してもらおうかと思っています。 C16:ノートにかいてある。 T:みんながお客さんならどんなスーパーがいいか教えてくれる？ C17:果物が多い。 C18:種類が多い。 C19:買い物がすぐにしやすい。 C20:環境に良い。 T:自分がどんなスーパーに行きたいか正直に言ってくれたら良いよ。 C21:CO₂を排出しないお肉とか。 C22:人気の商品がいっぱいある。 C23:いろんなどころの商品が置いてある。 C24:季節ごとに置いてあるものが違う。 T:季節に合ったもの。 C25:体に良い食べ物がある。 T:食べ物とか商品に関するものを黄色、店の中の買い物のしやすさや、環境のことは、赤い丸でかこみます。そして、 ①ものをどうやって仕入れるとか、買い物やすくするとか、環境に良いものにするには、お店はどんな工夫をしているのでしょうか？ ②お客さんのこの願いをかなえるためには、スーパーはどのようにしているか。 ③店長になったつもりで、お客さんのご意見カードに願いを書きましょう。食べ物で書いてみよう。</p>	<p>◎たくさんのお客さんが買い物に来る理由とスーパーマーケットで働く人の工夫とを関連づけて考えている。(思考力・判断力・表現力等) ○スーパーマーケットで働く人の工夫と関連づけて考えられるようにするために、お客さんが願っていることを示す。 ○・ほしいものをそろえてほしい ・安く買い物したい ・安全な食品を買いたいなどに着目させる。 ◎販売の仕事と自分たちの生活との関わりについて、主体的に話し合いながら考えようとしている。(主体的に取り組む態</p>
---	---	--

<p>3 スーパーマーケットの工夫について考えたことを、全体で共有する。</p>	<p>T:いろいろなものを多く仕入れるには、どんな工夫しようと思っているのでしょうか。</p> <p>C28: 国外などのいろいろなところから仕入れたり、状況によって多くしたりすることを変えます。</p> <p>T: 人気のあるものを多くするという事。</p> <p>T: 状況によって応じるとはどういうこと。</p> <p>C29: 地震とかに役立つ日持ちしそうなものや夏になったら夏のを仕入れる。</p> <p>T: 買い物をしやすくするにはどうしようと思っているか考えてみよう。</p> <p>C30: ほかのお客さんから意見を聞いて、どうしたらいいのか聞いてみます。</p> <p>T: 環境に良い店にするにはどうすればいいのだろうか？</p> <p>C31: リサイクルボックスとかを外や、中だと端に寄せたりする。</p>	<p>度)</p> <p>○お客さんの願いを知った店がどのような工夫をするかについて考えていくことを知らせ、めあてをつかむ。</p>
--	--	--

お客さんのねがいをスーパーマーケットはどのように実現させているのだろうか。

	<p>T: ここにみんなが出してくれたキーワードをいくつか使って、あなたが店長ならどんなお店をつくるのか、三つ答えてみてください。</p> <p>T: 隣の人とだけどんなことを書いたのか店長さん同士で見合ってください。</p> <p>T: 一個目。いろいろなものを多く仕入れてほしい。これ、どう答えますか。ネタが切れたら座ってください。</p> <p>C32: 種類を多く作って、一番多く売れたものを売る。</p> <p>C33: 外国のものから仕入れてもらう。</p> <p>C35: 新鮮なものを仕入れて、並べて、状況によって品を変えます。</p> <p>C36: 季節ごとに種類が違うものを仕入れて、新鮮な野菜を並べます。</p> <p>C37: トラックに積む量を増やしたり、トラックの台数を多くしたりする。</p> <p>C38: 外国から日本にないものを仕入れる。</p> <p>C39: 情報を集めて、お客さんに美味しいものを産地や外国から仕入れる。</p> <p>C40: 全国から牛乳や果物や野菜を並べて、好きなお</p>	<p>○多くのお客さんがスーパーマーケットに買い物にくる理由を、数名の児童に発言させることで、工夫を考える見通しをもてるようにする。</p> <p>○ワークシートに自分の考えをまとめていく。</p> <p>○理由を書きにくい児童には、これまで調べてきたことを共にたしかめながら助</p>
--	--	---

	<p>店の果物を買えるようにする。</p> <p>T:買い物をしやすくしてほしい。これにどう答えますか？</p> <p>C41:いろいろな買いやすくしてほしい情報を集める。</p> <p>C42:道を広くして車いすの人も通れるようにする。</p> <p>C43:道を広くして障害を持っている人も買いやすいようにする。</p> <p>C44:お米や重いものはレジ近くに置く。卵は、端っこに置いて買いやすくする。</p> <p>C45:見やすいところに置く。サラダだったら・・・。</p> <p>C46:いろいろな大きさに切ってあげる。</p> <p>C47:道を広くして人気の品を入口に置いたり，買い忘れやすい品をレジに置いたりします。</p> <p>C48:人気のものは入口近くに置く。</p> <p>C49:看板の文字を光らせたり，おすすめのもの看板を見やすくしたりする。</p> <p>T:環境。手上げた人立ってください。</p> <p>C50:リサイクルボックスを置くのと，飲み終わったペットボトルの容器をリサイクルボックスにつぶして入れる。</p> <p>C52:太陽光発電を使う。</p> <p>C53:リサイクルボックスをつくって，いつもより多く作る。</p> <p>C54:リサイクルをしたりする。</p> <p>C55:ゴミを捨てないようにゴミ箱を置く。</p> <p>C56:ポイ捨てをしないようにお客様に呼びかけをする。</p> <p>C57:CO₂を出さないようにする。廃棄が出ないように，消費期限が切れないようにする。</p> <p>C58:ゴミになるものは，リサイクルできるようにアピールする。</p>	<p>言する。</p> <p>○班で自分の考えを共有する。</p> <p>○発表の順番を定め，全員の考えを班の中で共有できるように助言する。</p> <p>○ワールドカフェの手法を用いて，学級全体で話し合う。</p> <p>○グループごとに話し合った内容を，元の班で報告し合うことで，より多くの考えに触れることができるようにする。</p>
<p>4 本時をふり返る。</p>	<p>T:まとめになりますが，いろいろなものを多く仕入れて欲しいときは，黄色い線を引いたところで大丈夫かな？</p> <p>T:何か足したいことはある？</p> <p>T:じゃあ，買い物をしやすくするためのキーワードは？</p> <p>C59:重いものはレジ近くに置く。見やすいところへ</p>	

<p>置く。看板でわかりやすく。道を広く。障害者でも買いやすい。</p> <p>T:最後に環境にいい店にして欲しいキーワードはどうする？</p> <p>C60:ポイ捨てをなくす。リサイクルボックスを増やす。廃棄をなくす。</p> <p>T:(リサイクルボックスにアンダーラインを入れながら)これ、ほとんどの人が書いとったなあ。大事そうだなあ。</p> <p>T:食べ物を捨てることを廃棄っていうんやな。それを無くしていこってということやな。</p> <p>T:今日のめあて、お客様の願いを叶えるためにスーパーがどんな工夫をしているのだろうか。黄色いキーワードを使って自分なりのまとめを書いてみましょう。</p> <p>C61:近くに並べていて、お客様の使いやすいスーパーマーケットにしている。</p> <p>C62:お客様の願いを叶えるために、道を広くしたり、環境に良いことをしたりしている。</p> <p>C63:お客様の願いを叶えるために、新鮮なものを増やす。</p> <p>T:ノートに貼りましょう。</p>	<p>○スーパーマーケットの工夫は、お客様の願いと比べてどうなっているのかを考え、本時のふり返りをする。</p> <p>○次時の学習では、本時で分かったことをもとに、スーパーマーケットのキャッチコピーをつくることを知らせ、学習の見通しがもてるようにする。</p>
---	---

10 児童の学習成果とその評価

(1) ワークシート記述内容から見た認識の変化

次の表は、本時の前と後で子どもたちが書いたワークシートから頻出語を抽出した表である。授業前では、一般的なスーパーマーケットの語句が並ぶが授業後では、自分たちが学んだ特定のスーパーマーケットに関わる語句が多く見られるようになる。

表1 授業前(左)と授業後(右)の頻出後の比較

抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数
商品	名詞	7	やすい	形容詞(非自立)	12
やすい	形容詞(非自立)	6	リサイクル	サ変名詞	9
レジ	名詞	6	お客	名詞	7
やさしい	形容詞B	5	多い	形容詞	6
ならば	動詞B	4	たくさん	副詞可能	5
おすすめ	名詞B	3	広い	形容詞	5
近く	副詞可能	3	させる	動詞B	4
書く	動詞	3	レジ	名詞	4
場所	名詞	3	仕入れる	動詞	4
前	副詞可能	3	買う	動詞	4
売る	動詞	3	あつめる	動詞B	3
分かる	動詞	3	いろいろ	形容動詞	3
うる	動詞B	2	かう	動詞B	3
みせる	動詞B	2	できるだけ	副詞B	3
ゆか	人名	2	ねがう	動詞B	3
バーベキュー	名詞	2	ほしい	形容詞(非自立)	3
パン	名詞	2	ボックス	名詞	3
魚	名詞C	2	食べ物	名詞	3
使える	動詞	2	人	名詞C	3
食べる	動詞	2	多く	副詞可能	3
入口	名詞	2	通る	動詞	3
品	名詞C	2	ごみ	名詞B	2
品物	名詞	2	ごみ箱	名詞	2

授業前では、「商品」「レジ」「安い」「やさしい」「おすすめ」であり、授業後では「やすい」「リサイクル」「お客」「広い」となる。このことは、授業中における児童の発言を見ていくと、スーパーマーケットに関する単語がぐんと増えていることが考えられる。その出現が多い単語を上げると、仕入れる(12回)、スーパー(10回)、環境(10回)、リサイクル(9回)、店(8回)、願い(7回)、種類(7回)、買い物(7回)、お客様(6回)、ボックス(6回)、広い(6回)である。このことは、教師の発言を受けて児童がスーパーマーケットについて考える目安であり、お互いの議論のキーワードとなっている。したがって、教師は、本時の目標を達成することを意図しながら児童に対する発問を行うことが重要であるといえる。そのために教師は、スーパーマーケットを対象とする学習において、「店員の働く様子」「消費者の願い・希望」「流通」「生産者と消費者の関係」など、どこに焦点を当てて学習を進めていくかを予め考えて授業のデザインを構築することが求められる。本時の展開においては、この点について、十分に行われていたと考える。

続いて、図1の「共起ネットワーク」は、学習中の発話記録から次のことがいえる。

- ①「仕入れる」は、「多い」「いろいろ」につながる。
- ②「リサイクル」「環境」「店」が関連している。
- ③「レジ」に関連して「置く」「近く」が表れている。
- ④円が大きい「する」の関連では「安い」「買い物」が表れている。

このことから、学習前に子ども達が気付いていたこと以上に授業を通して「リサイクル」「お客」に関心が集まっている。さらに詳しく見ていくと、「お客」は、「願い」や「工夫」と結び付き、その内容は、季節にあった新鮮な商品を増やしてほしいと関連する。また、「仕入れる」は、情報をもとに外国の商品を多くの種類から集めることを示している。さらに、児童は、買い物客がレジの近くの広い場所に商品を置いてほしいことや安く買い物ができることなどを望んでいることを学んだことを示している。

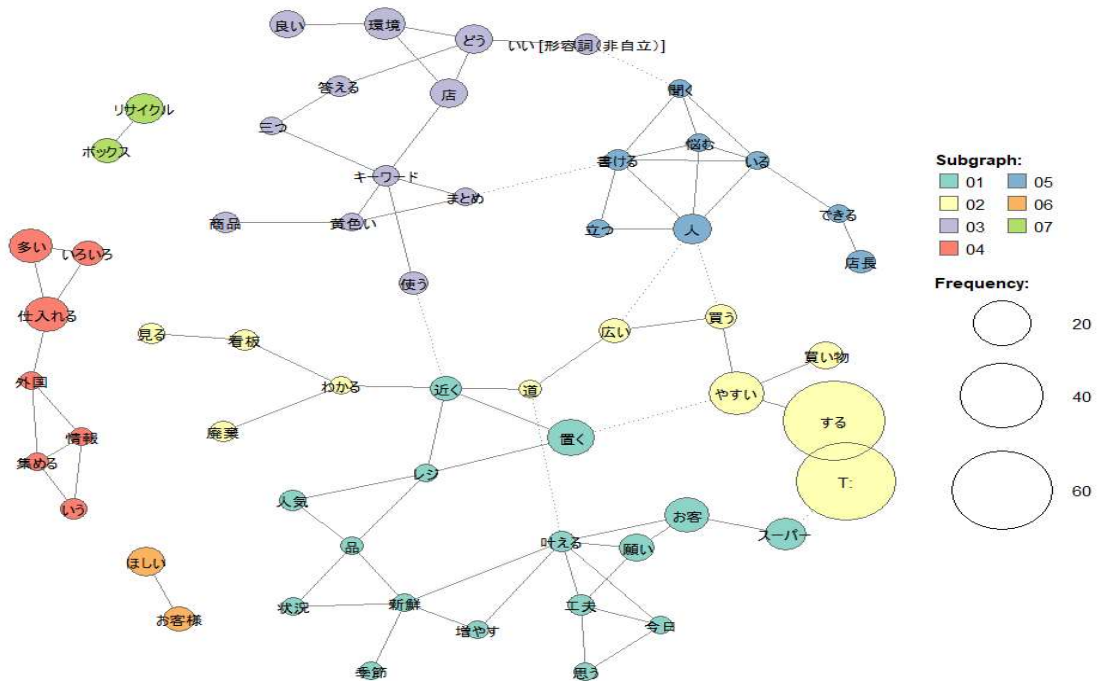


図1 共起ネットワーク

1 1 「18歳市民力」育成に向けての提案

民主主義社会においては、個人の価値観並びに多様な価値観は尊重されるという基本に則り授業が展開されるべきである。そして、社会的問題の課題解決にあたっては、個人と集団の価値観がそれぞれ尊重されることで、意志決定がなされる。そのためには、まず、授業のシステムとして、「推論及び批判的思考」による批判・調整がなされることである。そして、それぞれの価値観が反映された意見交流や情報交換などのコミュニケーションによる合意形成がなされることである。その結果、個人と集団の探究と価値分析が十分になされ、結果として価値判断ができ意志決定され、社会的問題解決に向けた提案として示される。このような、授業におけるシステムが作られることで、市民力が形成される授業が保障されると考える。

そこで、小学校第3学年社会科の経済に関わる内容における市民力育成に向けた次のような提案をしたい。

(1) 生活科において行われた活動から地域への児童の気付きと結び付けること。

生活科では、活動や体験から得た対象への気付きを明確にしていくことで、自分と対象とのかかわりについて考え、対象の持つ意味や自らの成長や可能性などについて気付いていく。この気付きが、3学年の学習において、経済的な活動が行われている対象（例えばスーパーマーケット）に対して自分と関わらせて考えていくことができるようになる。そして、学習を深めていく中で経済的な内容に関して、自らの対象に対する価値判断ができるようになり意志決定につながるようになる。

(2) 児童が「問題」を見つけ、互いに協働し合いながら問題解決ができる教材や方略による単元展開を図る。

学習は、児童が主体的に対象と関わることで問題解決を図っていく。教師は、一人ひとりの児童の問題に対するかかわりに応じた教材を用意したり、児童の問題解決に役立つ支援をしたりしていく。その際に、児童が対象とかかわりながら、推論や批判的な思考ができるように働きかけることを大切にしたい授業展開や支援を心がけていく。

以上の2点に配慮した単元構想のもとで授業展開を行うことが市民力育成につながると考える。

【参考文献】

- 工藤文三(1997)「経済学の方法から見た経済学習の諸問題」『社会系教科教育学研究』第9号, pp. 13-20
- 栗原 久(1993)「経済的な見方や考え方」についての一考察」『筑波社会科研究』第12号, pp. 47-52
- 佐藤章裕(2010)「小学校社会科における経済概念の啓成—第3学年単元『スーパーマーケットのひみつをさぐろう』を事例に—」『社会科研究』第73号, pp. 41-50
- 中本和彦・河田節生(2006)「科学的な見方や考え方を拡大・深化させる小学校社会科の単元開発とその検証—小学校3年生単元『ものを売る仕事—通信販売—』を事例として—」『社会系教科教育学研究』第18号, pp. 19-30
- 樋口 耕一(2020)『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】KH Coder オフィシャルブック』, ナカニシヤ出版, p. 264
- 小野間正巳(関西福祉大学)・梶本拓海(兵庫県姫路市立曾左小学校)